

2019年度海洋教育こどもサミット in みうらにおける各校の発表 その4
初声中学校 2年生 「わたしたちが学んだ“海”」

海洋学習係を発足させ、学校近くの一歩川で捕獲したウナギの飼育を行っていて、実際に飼育中のウナギを水槽で見せていました。

「煮干しの解剖」（県立海洋科学高校の先生による）の授業や東京大学三崎臨海実験所での職場体験についても発表していました。



県立海洋科学高等学校 「未利用資源の有効活用と藻場の再生」

相模湾で深刻な問題になっている磯焼けについて報告し、藻場の再生のために、小田和湾での水質調査を継続的に行っていることや藻（草）類を食害する生物の有効活用について発表していました。

特に、アイゴをバーガーにしたり、アヒージョにしたりして、販売していることが印象に残りました。



2月15日（土）、東京大学で、第7回全国海洋教育サミットが開催されました。今年のテーマは、「気候変動と海洋リテラシー」でした。

三浦市からは、本研究所がポスターセッションで参加しました。三浦市の海洋教育の新しい視点として「持続可能な海洋」を目指す海洋教育の例として、旭小学校6年生の取組や初声小学校4年生の取組を紹介しました。また、コンピテンシーベースでの海洋教育の取組とその実践について説明し、多くの参加者の質問を受けました。



午後は、最初に、「国連海洋科学の10年」（2021年～2030年）と世界の海洋科学の現状について、JAMSTECの安藤健太郎氏の講演がありました。6つの目標（「きれいな海」「健全で回復力がある海」「予測できる海」「安全な海」「持続的に収穫できる生産的な海」「情報やデータにアクセスできる開かれた海」）を挙げてお話しされました。

続いて、海洋リテラシーの構築に向けた海洋教育実践として、気仙沼市立鹿折小学校、逗子開成中学校・高等学校、沖縄県竹富町の取組が紹介され、パネルディスカッションも行われました。



そして、最後に、アニメーション映像「海ーいのちを巡る旅」が上映されました。

※参考「海洋リテラシーの7つの原則」

- ①地球には、様々な特徴を持つひとつの大きな海洋がある
- ②海洋と海洋中の生命が、地球の特徴を形作る
- ③海洋は、天候や気候に大きな影響を与えている
- ④海洋によって、地球は生物が生息できる場所になっている
- ⑤海洋は、生命と生態系の大きな多様性を支えている
- ⑥海洋と人間は、互いに分かちがたい関係にある
- ⑦海洋の大部分は、今もなお探求されていない

（文責 事務局長 渋谷）